

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化国際課長 坂本 偉健	電話番号	0852-22-6006
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	次世代人材育成のための青年派遣・交流事業		
目的	(1) 対象	島根県の青年	
	(2) 意図	次世代を担う国際感覚を備えた青年を育成する	
事業概要	姉妹・友好交流先からの青少年受け入れ、県内青少年の同地域への派遣による相互交流を通じて、次代を担う若者の国際感覚を養成するもの。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	島根県が関わる青年交流事業の参加人数	目標値	20.0	20.0	20.0	20.0	人
	式・定義	「交流の翼事業」、「青年海外派遣事業（内閣府）」の参加青年数	実績値	11.0				
			達成率	-	-	-	-	
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	8,152	7,890
うち一般財源 (千円)	3,152	2,890

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

近年、参加者数が減少しており、海外に目を向ける若者が減少傾向にあるように見受けられる。特に中国・韓国との交流事業については、政治状況やメディア等の影響もあり、参加者が低調である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

島根プログラムでは、大学1年生の参加者が多く、国際交流などの経験が少ない学生の国際交流活動の入口となった。ホストとして、外国青年を受け入れるプログラムを作成する段階で、自ら考え行動する力が身につく、次世代のリーダーシップを養うことができた。
 寧夏プログラムでは、現地において北東アジア地域の各国の青年と共に文化交流を行い、参加者は国際感覚を身につけることができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
応募者がなかなか集まらない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
一般論として、若者の国内志向、地元志向が進んでいることがあげられる。また、県内の大学においても同様のプログラムを実施しており、参加者が分散している。
加えて、広報の際、事業の魅力が伝わっていない可能性がある。
- ③原因を解消するための「課題」
国際交流員を大学に派遣するなどし、学生が外国との接点を持つ機会を増やし、国際交流事業に興味を湧かせるよう働きかけることが課題である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

県内にも在住外国人が増加しているなか、多文化共生の観点からも若者に国際感覚を身につけてもらうことは必須であり、継続して事業を実施していくことは必要である。現在、ニーズが多くなるとも、将来の島根のために取り組む必要性は高いと考えており、県内大学等へ協力を働きかけ、連携し事業を実施していく。
 参加者の募集の際には、より事業の魅力が伝わるよう、動画をSNSにアップする等工夫して実施し、過去の参加者のネットワークなども活かし、参加者の増加につなげるよう工夫していく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）